

### 大腸がんの腹腔鏡手術

川口市立医療センター  
消化器外科 柳 舜仁



大腸がんは罹患数(一定期間に病気にかかる人数)が全てのがんの中で一番多く、特に女性では死亡者数も最多のがんです。創が小さい腹腔鏡手術は、開腹手術に比べ痛みが少なく、早期回復にメリットがあり、全国的に普及してきています。当院の大腸がん診療は腹腔鏡手術に特化し、2020年の腹腔鏡手術率は8月末の時点で99%です。大腸がんは、周囲臓器への浸潤や高度リンパ節転移があった場合も、切除不能な転移が無いがぎり、手術によって根治を得られる可能性があります。当院では高度進行がんに対する他臓器合併切除や側方リンパ節郭清といった拡大手術も腹腔鏡で行います。手術では、腸管の吻合部が破綻する縫合不全や、周囲臓器の損傷、出血などの術後合併症が起こりますが、これらを回避するために最新のデバイスを用い、近赤外光による蛍光ガイド下腹腔鏡手術を行っています。インドシアニングリーン(ICG)という薬や、蛍光カテーテル・蛍光クリップを使用し、病変部や血管、尿管を蛍光で光らせ、ナビゲーションとしながら安全に腹腔鏡手術を行います。通常では目に見えない腸の血流も蛍光で視覚化できるため、血流の良好な腸管を吻合部とし、縫合不全を予防する取り組みを行っています。手術は進歩していますが、大腸がん検診や大腸カメラによる早期発見が何より大事です。下血や便秘の症状があるかたは、かかりつけ医に早めに相談しましょう。

### 知っていますか?「指定難病に係る医療給付制度」

指定難病(国が指定している疾病)は、現在333疾病あります。この指定難病で、一定の基準を満たしているかたに指定難病の治療に係る医療費の一部を助成する制度です。医療給付を受けるには埼玉県から認定される必要があります。

#### 対象者(①~③の全ての要件に該当するかた)

- ①指定難病に罹患している(疾患ごとの認定基準を満たす必要があります)
- ②川口市に住居票がある
- ③原則として、提出した臨床調査個人票(診断書)が厚生労働省の研究事業などの基礎資料として使用されることなどに同意している

#### 助成対象となる医療の範囲

指定難病や当該指定難病に付随して発生する傷病に関する医療など  
(例)健康保険を使用した「入院、外来、薬剤の支給、訪問看護」、介護保険の給付でを使用した「訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導」

※健康保険適用外の費用やサービスなどは対象外です。

### 医療給付を受けるには?

- ① 川口市保健所に支給認定申請を行う
- ② 埼玉県の審査を受ける
- ③ 埼玉県から認定されると「医療受給者証」が交付される

※医療受給者証の交付まで2~3カ月程度かかります。

詳細は、埼玉県のホームページをご覧ください。

問 疾病対策課 ☎048-423-6708

## イベントスケジュール

→3ページ

11月

13日(金)・14日(土)  
川口市市産品フェア2020  
場 SKIPシティ

→8ページ

12月

4日(金)  
かわぐち光のファンタジー2020点灯式  
場 川口駅西口(川口西公園)

→12ページ

5日(土)  
環境フォーラムinかわぐち  
場 フレンジア



19日(土)~2/28日(日)  
アイススケート場オープン  
場 グリーンセンター アイススケート場

27日(日)~31日(木)  
スーパースターフェスタ2020  
場 川口オートレース場



## これからの商店街の在り方

川口市商店街連合会会長 田中 宣充さん

明るく楽しい商店街・豊かな街づくりのために日々まい進する「川口市商店街連合会」は、昭和50年に創立された。ランドセル製造会社の取締役会長を務める田中さんは4年前に会長に就任。現在2期目となる。川口銀座商店街の再開発をはじめ、川口市商店街連合会会員の活動支援など、「商店街をきつかけにたくさんの人に川口市に定住してもらいたい」との思いでさまざまなことに取り組んできた。地元の商店街で買い物をする人は年々減っているのが現状。「ここ十年で生活スタイルが変わった。商店街もその変化に合わせて変わっていかないと役員を失っていく一方である。これからの商店街は、『地域コミュニティ』がカギ。地元住民と共に、いかに協力して街づくりをしていくのかを

考え、活動していかなくてはいけない。」と熱く語る。その活動の一つが、川口銀座商店街にある「燦ギャラリー」。市民が作った物を展示したり紹介したりすることのできる貸しギャラリーを開設した。すると、利用されない日はないほど反響は大きく、市内外から年間約1万2千人の来場者が訪れるほどの大盛況。単なる買い物をする場所の一角が、アイデア一つで人が集うコミュニティ形成の場に変身した。魅力のあるまちづくりを、地元住民も巻き込んで商店街が仕掛けていく。こういった活動こそが、新しい商店街の在るべき姿なのかもしれない。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、商店街は大きな打撃を受けた。「新型コロナウイルスによって人々の生活環境が本



当に大きく変化しました。今まで通りを行うのではなく、これまで以上に状況に合った柔軟な経営を行っているかなくてはならない。その思いから、以前なら実現できなかった大型店とのコラボレーションや、店舗同士での新型コロナウイルス感染症対策の情報共有、そして勉強会。この難局を乗り越えるための取り組みを絶えず考え、実行している。新型コロナウイルスにより大きな痛みを受けているのはどの店舗もみな同じ。一致団結して助け合っています。逆境に負けず、できることを模索する商店街が新しい姿で成長していくことを切に願う。(優)